

第1回「スマートプラチナ社会推進会議」議事要旨

1. 日 時：平成25年12月17日(火)10:00～11:30
2. 場 所：総務省 7 階省議室
3. 出席者：
 - (1) 構成員
小宮山座長、小尾座長代理、浅川構成員、小倉構成員、金子構成員、清原構成員、広崎構成員、武藤構成員
 - (2) オブザーバ
内閣官房健康・医療戦略室、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付高齢社会対策担当、文部科学省生涯学習政策局社会教育課、厚生労働省政策統括官付情報政策担当、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室、国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室
 - (3) 総務省
上川総務副大臣、藤川総務大臣政務官、桜井総務審議官、鈴木官房統括審議官、阪本情報通信国際戦略局長、吉田政策統括官、渡辺大臣官房審議官、佐藤情報通信利用促進課長、田邊情報流通高度化推進室長
4. 議事要旨：
 - (1) 開会
 - (2) 上川総務副大臣挨拶
上川総務副大臣による挨拶が行われた。
 - (3) 藤川総務大臣政務官挨拶
藤川総務大臣政務官による挨拶が行われた。
 - (4) 小宮山座長挨拶
小宮山座長による挨拶が行われた。
 - (5) 小尾座長代理挨拶
小尾座長代理による挨拶が行われた。
 - (6) 議事
 - ① 事務局説明
事務局より、資料1-2に基づいて、今後の進め方についての説明が行われた。
 - ② 戦略部会の設置と戦略部会主査の選出について
本会議の下に戦略部会を設置し、戦略部会の主査として金子構成員が選出された。
 - ③ 構成員によるプレゼンテーション
小尾座長代理より資料1-3、小倉構成員より資料1-4、広崎構成員より資料1-5、武藤構成員より資料1-6に基づき、それぞれプレゼンテーションを行った。

④ 意見交換

本会議で検討すべき内容や方向性について、各構成員から以下の意見が出された。

(清原構成員)

- ・ 市町村では社会保障の改革が進んでいく中で、共通の課題として、税収は増えない一方、社会保障による歳出は増えていくことが見込まれていることがある。都市部では急速に高齢者の人口増加が見られる、いわゆる逆都市化という状況が進んでおり、いかに人口が減少し、少子・長寿化していく中で対応していくかということが課題である。
- ・ 医療・介護・福祉等の連携の必要性の認識の中から、主として医療を切り口にご提案いただいた問題というのは、地域にとって差し迫って重要性のある領域である。特にこの点について、戦略部会で具体的に検討することは日本だけでなく、アジアの超高齢化に資するとともに、制度としては、先進的であるヨーロッパ諸国に対しても有効な提案ができる道につながるのではないかと感じた。

(小宮山座長)

- ・ 前回のICT超高齢社会構想会議のときと同様に、健康・自立・社会参加の視点、その上で医療・介護の視点から議論すべきである。この点に従って、戦略部会では全体構想的な戦略づくりをお願いしたい。

(清原構成員)

- ・ スマートプラチナ社会の構想は、できる限り長寿になっても自立し、社会にアクティブに参加して、経済的に生み出す側に回ってもらう人をいかに増やしていくかということ、そのときにICTが活きると思う。アクティブシニアの健康寿命の延伸、予防に力を入れるところからICTを活用すれば虚弱化高齢者、在宅医療被提供者になる人口は減るという見通しもあるということを含めて先ほど発言した。

(浅川構成員)

- ・ 今、アメリカの研究開発では、リハビリテーションや虚弱化していく高齢者をテクノロジーにより、どう支援するか非常に焦点を置いており、欧米では高齢者に働き続けてもらうということまでまだ考えていない状況。他方、日本では、前回の構想会議を経て、アクティブシニアをどう支援するか、具体的には、高齢者間でICTを教え合うことにより、ICTの得意な高齢者を増やすか、また、働き手としての高齢者をいかにICTを使って増やすかというところに焦点を置いており、この点について、日本が研究開発をリードしていく、また世界にそれを輸出していく大きな可能性があるのではないかと感じた。
- ・ 医療についても予防医学において、自分自身の健康を様々な技術を通して管理していくことによって、健康で居続けられる、健康で働き続けられる高齢者の数を増やすためにICTのできることは非常にたくさんあるのではないかと感じた。

(金子構成員)

- ・ テクノロジーというと、速さ・強さ・効率といった点が強調されると思うが、スマートプラチナ社会では、安心や信頼という要素も非常に重要。今まで私のチームは比較的過疎の地域で実証をしてきて一定の成果は出ているものの、これと同じことを高齢社会が集中する都市部でできるかどうか課題となるが、実現は十分に可能だと思う。

(小倉構成員)

- ・ 逆説的な話だが、緊急病院に運ばれてくる高齢者の中で、80代は日頃健康で活動的な方が多い。逆に、70代で運ばれてくると、日頃から体が弱っている方が運ばれてくるかもしれないということで、先ほど座長がおっしゃった、健康・自立・社会参加をしているようなお年寄りを支援して、なおかつ、セーフティネットを担保することにより、虚弱高齢者ができるだけ長くアクティブな高齢者でいられるような社会をつくるのは、理想のようなことになるのではないかと思う。

(小宮山座長)

- ・ シームレスな情報の流れ、ICTの活用が重要。これは日本全体として考えていかなければいけない問題。
- ・ ロボットについては、産業としても重要。特にブレイン・マシン・インタフェースについては進歩がとても速く、そのための産業というのも、膨大なはずである。これにどう対応するかは、国として、大変重要である。

(小尾座長代理)

- ・ 最近の日本・EUの会議でもプレゼンの半分がロボットである。ヨーロッパが大変期待していて、共同研究も必要と考える。
- ・ 経済界がもっとこの問題にしっかり取り組むべきである。本会議に経団連や経済同友会、商工会議所等にもご参加いただきたい。
- ・ 推進会議は何をいつ誰がどこでどうという、はっきりとした2020年に向けての大きな流れをつくっていくのが我々の使命だと思っている。

(小宮山座長)

- ・ ロードマップは非常に重要なので、ぜひお願いしたい。ただし、この分野は非常に変化が速いため、ロードマップを書き直すことも考慮に入れてつくればよいと思う。

(武藤構成員)

- ・ 高齢者に関しては、食事・運動・社会参加といった3つの軸でどのように評価し、どのような介入をして、その効果を何で判定するか、それをサイクルとして行っていくことが非常に重要である。これらは全てが集まると非常に多量の複雑なデータである。このビックデータを分析することが、健康寿命の延伸や機能回復・維持には重要であり、国家として是非推進していただきたい。
- ・ 世界的な課題である認知症をサポートするロボットなどの技術は、今後非常に大きなマーケットになる。これこそ医療と工学の連携から生まれるイノベーションであり、ここもぜひ目標として掲げていただきたい。

(7) 藤川総務大臣政務官ご発言

最後に藤川総務大臣政務官からご発言があった。

(8) 閉会

以上